

令和3年度世田谷教育推進会議（第3回）及び
世田谷区総合教育会議（第2回）の実施結果について

1 主旨

今日的な教育の諸課題を学校・家庭・地域及び教育委員会で共有し、協働して取り組むことを目的とする世田谷教育推進会議と、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置した、首長と教育委員会の協議の場である世田谷区総合教育会議を連続して開催したので、報告する。

2 日時

令和3年10月23日（土）

① 13時00分～14時20分：世田谷教育推進会議

② 14時30分～16時00分：世田谷区総合教育会議

※ビデオ会議ツール（Zoom）を使用してインターネットライブ配信を実施した。

また、11月2日より You Tube 区公式チャンネルにて動画配信を実施している。

（11月8日9時30分現在、動画の再生回数 教育推進会議 859回
総合教育会議 537回）

3 当日の視聴者数

113名

4 会議の概要

別紙チラシ参照

5 世田谷教育推進会議の内容

（1）乳幼児教育・保育支援課長の報告

・幼稚園教育要領、保育所保育指針等を踏まえた「世田谷区教育・実践コンパス」を説明した。

（2）無藤隆氏（白梅学園大学名誉教授）の講演

- ・環境を通しての教育・保育が重要であり、主体的な学び、対話的な学びに繋げ、深い学びに発展することで、子どもの学びの実現を図っていく必要がある。
- ・地域の子どもたちをともに育てていく施設として、幼稚園、保育所、認定こども園等が互いにどういう子どもの姿を実現していこうとしているかの見方などを共有し、地域としての教育・保育の責任をともに担っていく必要がある。
- ・保育者は絶えず保育を見直し、記録とその検討を共有し、より良い保育に向けて、改善していく必要がある。同時に、自らの保育に関わる知識・スキル・力を研修を通して高めていき、乳幼児期にふさわしい教育とは何かと絶えず問いかけながら、専門家としての知識を伸ばすことにより、その責任を果たす必要がある。

(3) パネルディスカッション

幼稚園・こども園連絡協議会会長

- ・保護者から見て、区立幼稚園では子どもたちが遊びをとおして楽しみながら学び、ものごとを主体的に考えられる教育を大切にしている。先生方の知識・経験も豊富で、子ども一人ひとりをよく見て、様子を見守り、言葉がけをし、成長につなげている。

せたがや子育てネット代表

- ・世田谷出身の保護者は少ないため、乳幼児教育支援センターの先生方とともに、世田谷が保護者にとって「そこにいていいんだ」という安心できる居場所となるようにしたい。

砧幼稚園副園長

- ・より質の高い乳幼児教育・保育の実践に向けて大切にしているのは「遊びの充実」である。「遊び」はレジャーやリフレッシュのイメージが強く、また、早期教育をイメージされる方もいる。幼児教育で言う「遊び」という重要な学びの場を保育にかかわる人みんなが理解していくことが必要である。

保育課係長（保育士）

- ・子どもは家庭や保育園の中だけでなく、地域全体の様々な人とのつながりの中で育っている。保育園が子育ての支援をしている様々な地域の方々と情報共有しながら、地域全体が子育てをしやすいよう、つながりをつくっていくことが重要な役割となる。

乳幼児教育・保育支援課長

- ・区内の子どもたちが在籍する施設に関わりなく質の高い教育・保育を受けることができるように、乳幼児教育支援センターを中心として、研修の実施や実践事例の積み重ねなどにより、公私立幼稚園・保育所等での共有化に取り組んでいくとともに、公私立、幼稚園・保育所等の枠を超えた連携や幼・保・小の連携の促進を図っていききたい。

視聴者からの質問と参加者からの回答は以下のとおり。

【視聴者からの質問①】

- ・幼稚園や保育園が、子どもたちのために今はぐくむべき力とはどんな力なのか。その力の土台をはぐくむため、乳幼児期にどのようなことが必要なのか。

砧幼稚園副園長からの回答

- ・幼児期は自分で考えて行動する力などをはぐくむ土台の時期。生活や遊びなどの具体的な体験を通してその力を培うことが必要。また、保育者は子どもが安心して主体的に関わることができるような環境になることが必要。

保育課係長（保育士）からの回答

- ・目標を自ら作り出すような探究的な力をはぐくむべき。そのためには、生活の中で出会うすべての人や物に興味・関心を持ち、安心して関わられるような環境を幼稚園・保育園が作ることが必要。

【視聴者からの質問②】

- ・家庭の教育力や養育力を向上させるために乳幼児教育支援センターではどのような取組みが望まれるのか。

せたがや子育てネット代表からの回答

- ・子どもたちも子育てに参画する地域の中で、当法人は赤ちゃんを中学校に連れて行くような参画の場をつくっている。こうした事業や、事故予防、小児医療への関わり方、子どもの権利について学べるような環境整備の支援をしてほしい。

山下文一氏（高知学園短期大学教授の講評）

- ・乳幼児期の教育・保育は1本の木に例えられる。私たちは美しい花をめであるが、風雨に耐える根をめではない。乳幼児期の教育は根の部分の教育である。公私立、幼稚園、保育園といった違いはあるが、風雨に耐えながら成長する幹につながる根を大切にすることや、質の高い教育・保育の実践を目指すことに違いはない。それぞれの園の理念や特色を活かし、乳幼児教育支援センターや区立幼稚園・保育園がコンパスを軸とした取組みを一丸となって進めていくことが必要である。

6 世田谷区総合教育会議の内容

(1) 藤田晃之氏（筑波大学教授）の講演

- ・自己肯定感を高めるためには、自己効力感（ある目的を達成するための計画をたて、自分ならそれが実行・実現できると信じる感情）を育てることが重要。
- ・生徒の学習到達度調査（PISA）（高校1年生対象）のデータから、日本は世界に比べて、自己効力感が非常に低いといえる。
- ・自己効力感とは3つの柱（成功体験、代理体験、言語的説得）に支えられており、学校生活はこうした体験の宝の山である。
- ・自己効力感を高める方策としてキャリア教育（各学校段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動を通して達成させることを目指すもの）が挙げられる。
- ・キャリア教育を通して自己効力感を高めるうえで、既存のアンケート等のデータから現状を分析し、具体的な目標「目当て」を設定することが重要。
- ・目当てを設定することで、褒めるポイントが明確になる。
- ・「できた」と認めるのは子ども自身（成功体験）だが、地域、家庭、学校の先生方が、「そうすればいいのか」というモデルになっているか（代理体験）。そして、地域、家庭、学校の方々が、「できたね」「目標設定できたね」と認め、褒めているか（言語的説得）。こういったことが、自己効力感や自己肯定感を高めるうえで重要である。

(2) 意見交換及び質問への回答

区長

- ・平成 25 年、平成 30 年に区で実施したアンケートで、「自分のことが好きですか」という質問項目に対し、中学生では「すごくそう思う」「そう思う」と回答した割合が半数に至らなかった。少数だが「ほとんどそう思わない」との回答もあった。こうした結果から、まだまだ課題があると認識している。
- ・これからの時代は、子どもたち自身に選んでもらう、作り上げてもらうことが必要。そのためには、間違ふことや失敗することに対する許容が広くないと、子どもたちは大胆に踏み出してトライできないだろうと思う。我々大人の価値観、考え方を見直すとともに、これからの社会を生き抜く学びや子どもたちの成長を支えるため、12月20日にオープンする教育総合センターを拠点に取り組んでいくことを期待する。

教育委員

- ・新しい自分を見出すという点で、家庭、地域、学校から離れた居場所があると良い。区の希望丘青少年交流センターの「アップス」上北沢の「たからばこ」などは、第4の居場所として、子どもの自己肯定感、効力感の向上に資するものになると考える。
- ・日常生活の中で自己肯定感は育まれていくものと考え。多忙で子どもと向き合う時間が十分取れない場合でも、向き合い方を意識して変えていければ、子どもにとって良い環境が作れると思う。
- ・社会の中で子どもを育てるといふ部分が、世田谷区では課題であると思っている。子どもたちには、社会と触れ合い一緒に考えて前進していくような経験を積ませてあげたい。
- ・自己肯定感を育むために、子どもを認める、承認することが必要である。そのためには、子どもが自分の考えや判断によって選択できる機会を作ることが重要である。選択の機会と、事実承認（結果に至る事実、プロセスを承認）を重視する授業が行われるためにも、選択の機会、承認の仕組みを作っていくような教育にしていきたいと考えている。

教育長

- ・世田谷区の子どもたちの状況について
全国学力・学習状況調査の結果から、世田谷の子どもたちは、自己肯定感、自己効力感、全国と比べて高い状況にある。一方、地域行事への参加が低いこと、今の学習（国語、社会など）が社会に出た時に役に立つと回答した割合が低いことを課題と認識している。
- ・世田谷区の教育政策について
子どもたちの自己肯定感を高めるために、まずは、子どもたちのメタ認知力（客観的な自分を知る力）を高めることを考えている。自分がどういう自分なのかを知り、自分の成長を確かめるために振り返り等を行っている。

視聴者からの質問と区長、教育長、教員委員からの回答は以下のとおり。

【視聴者からの質問①】

- ・自分の子どもは自己肯定感が低いように感じる。家庭でもできることはあるか。

教育委員からの回答

- ・親と子の関係ではなく、一緒に考えて結論を出していくなど、家庭の中で、正解を子どもに教えるのではなくて、一緒に何かをつくり上げていくという環境を作っていく

ことが、早道ではないかと思う。

【視聴者からの質問②】

・世田谷区ではキャリア・パスポートについてどのような取組みをしているか。

教育長からの回答

・世田谷区では、児童・生徒全員が、一人一冊のキャリア・パスポートを作成している。具体的な内容としては、「1年間のめざす自分」について、「6年間（3年間）のめざす自分」等について設定している。また、保護者、教員がコメントを書く仕組みになっている。これは「言語的説得」となり、自己有用感、自己肯定感を高める上で有効である。

キャリア・パスポートでは、子どものメタ認知力を上げることと、今の学びが将来に役立つことを子どもたちに知らせるために重要である。

【視聴者からの質問③】

・外国と比べて日本は自己効力感が低いようだが、各国の取組みから参考になることはあるか

区長からの回答

・オランダへの視察の中で、生徒会連合に話を聞く機会があった。政府が高校教育に関して政策を変えるときに、必ず生徒自身の了解を得るように国会議員たちと交渉する、場合によってはデモもやるとの話であった。日本では、自分たちが社会や国を変えることができると思っていない子がすごく多い。そういう意味で、シチズンシップ教育がこれから非常に重要になると思う。

自分が社会の中で、どのように生きていくのかということではなくて、市民として、それぞれの見えない他の国の人たちにも心を通い合わせながら、どんな行動をしているといいのかということも小学校、中学校の頃からディスカッションしていく。そういうシチズンシップ教育が、自己肯定感と密接な関係にあると思う。

世田谷区 教育推進会議＋総合教育会議

【開催日時】

令和3年10月23日(土曜日) 午後1:00～3:55



区長と教育委員会のディスカッション及び教育に関する講演の様子を、オンライン（Zoom）でご覧になれます。乳幼児期からの子育てに必要なことは何か、どうすれば子どもたちが自己肯定感を高められるか、一緒に考えてみませんか。

第1部 教育推進会議 (午後1:00～2:20)

テーマ 「より質の高い乳幼児教育・
保育の実践に向けて」

令和3年12月に、「乳幼児教育支援センター」が開設します。区の乳幼児期の教育・保育の推進拠点の役割を担い、幼児教育・保育の研究を行い、幼稚園教諭・保育士に共通の研修を実施していきます。開設に向けて、質の高い乳幼児教育・保育の実践に向けた区の取組みについての説明、講演、パネルディスカッションを行います。

●講演

乳幼児教育・保育の現場において、大切にすべきポイントなどについてご講演頂きます。

【講演者】無藤隆氏（白梅学園大学名誉教授）

●パネルディスカッション

教育・保育を実践する中での今後の課題や方向性についてディスカッションを行います。

出席者

山下文一氏（高知学園短期大学教授）
巨由美恵氏（幼稚園・こども園連絡協議会会長）
松田妙子氏（せたがや子育てネット代表）
糸川応子氏（砧幼稚園副園長）
鎮目健太氏（世田谷区保育課係長（保育士））
本田博昭氏（世田谷区乳幼児教育・保育支援課長）

第2部 総合教育会議 (午後2:30～3:55)

テーマ「子どもたちの自己肯定感を育てる」

●講演

「子どもたちの自己肯定感を育てる」をテーマに、筑波大学教授よりご講演頂きます。

【講演者】藤田晃之氏（筑波大学教授）

●意見交換

子どもたちの自己肯定感を育てるためには何が必要か、課題を共有し、今後の教育政策の方向性について、意見交換を行います。

〔出席者 保坂区長、教育長、教育委員〕

※総合教育会議は、法律に基づき、区長と教育委員会が教育政策について議論する場です。



【主催】世田谷区教育委員会、世田谷区
【問合せ】世田谷区教育委員会事務局教育総務課
TEL03-5432-2745 Fax03-5432-3028

【当日の視聴方法】

オンライン(Zoom)で開催します。視聴にあたり参加事前登録が必要です。

詳しくは世田谷区のホームページをご覧ください。

URL <https://www.city.setagaya.lg.jp/event/kodomo/d00193726.html>

※当日の様子については、後日、YouTubeの世田谷区公式チャンネル「せたがや動画」で配信します。

URL：<https://www.youtube.com/user/SetagayaCity>

